

◆定期委員会で強調させていた「JR西労組でいい」「JR西労組がいい」を指す。◆いろんな政策を会社に提言し、実現させる力のある労働組合が必要だ。との認識をもらったのが我々の努めである。

白壁組織部長

◆東の情勢が現在進行形なので、タイムリーに情報をお伝えしている。
◆4月に青女委員がJR東日本の入社式でピラ配り。
◆来年は2月ぐらいに、ネットワーク委員会を開催。
◆京都地本「お悩み交換会」を10年以上開催。
◆男性も女性も1割ぐらいが、不妊治療を経験。
◆総合職であろうが、プロ採であろうが、契約社員であ

あろうが、JR西労組の組合員のみならず、どこにいても仲間がいる。
◆女性ネットワーク委員会について、意見交換ができてよかったと聞いている。
◆制度はもちろんだが、男性の意識改革が必要。制度を作っても風土が課題。
◆誰でも参加できる、役員になれるよう、子供をつれて活動できるJR西労組運動を目指したい。
◆本部大会を各エリアで開催しているのは、準備地本の組織力が強化されるということもある。
◆職場復帰について、まずは資格を持った職場に戻っていただける風土をつくっていく。
◆鉄道の仕事は、技術・技能を積み重ねていく資格職の職場である。
◆青女には仲間作りという

**第1小委員会
発言者**



第2小委員会(業務)

第2小委員会は、中央本部から14名、委員74名中70名が出席。小委員長には、前田委員(金沢地本)が選出された。冒頭、城副委員長から「触車事故防止準則」「伯備線触車死亡事故」「同一労働・同一賃金」の業務体制の見直し、「バス地本の課題」「医療の課題」等について、課題提起が行われた。43名の委員から発言があり、活発な議論が展開された。最後に、城副委員長が総括答弁で、「それぞれの立場で話し合うことが、安全で安心な職場を作る唯一の近道である」と締めくくった。

中央本部出席者

城副委員長、羽野企画・総務部長、福本業務部長、禅野賃金対策・教育部長、森業務部次長、山下業務部次長、米村特別執行委員長(新幹線協議会)、飯田営業部会長、大石営業部会長、山中工務部会長、江上間接部会長、永尾関連業務部会長、弥栄医療部会長

発言者氏名

金沢地本・狩野委員 村椿

発言要旨

●本点検、整備にあたるグループ会社を含めた社員に対し、必要な物資の確保と労働安全、衛生について、

の安全確保が大切である。
●山師と契約し、沿線樹木の管理を任せてみては。
●働き方改革は環境改革。労働負担を軽減するため、協力会社が求める労働環境の改善をお願いする。
●在来線から新幹線への人材運用をやめ、新幹線の直接採用を。また、新幹線で働き、在来線に戻りたいと悩んでいる組合員を在来線に戻すように。
●女性が気持ちよく働けための、設備環境が全く整っていない。女性ネットワーク委員会等を活用し、意見を集約し、女性が会社に声を届ける仕組みの確立を。
●育児を取る組合員が増える一方、周りに迷惑がかかるのではと、取得に躊躇する組合員もいる。勝ち取った制度のさらなる活用により、本部の後押しをお願いする。
●可能な限り鉄道代行に精力をつぎ込む。
●バス業界の高齢者や女性の積極的な採用と短時間・短日数勤務の導入を。
●岡山市が、新規参入業者の低運賃運行を認可。これはクリームスキミング(いとこ取り)である。行政の課題として、署名活動への協力を願う。
●新幹線の警備員による駅構内・車内の巡回や列車添乗の強化は、8月までの暫定対策だが、今後の方針を聞かせてほしい。
●岡山・博多の車内巡回は必要ないのか。
●そのの乗組定数削減を考え直すべき。
●新幹線人身事故対策は、3社共通の取り組みでなければ意味がない。
●ワンマン列車拡大に伴う運賃は脱についての見解。
●新型車発機の取り扱いが煩雑。改善を。
●やくもの新型車両は、故障が多く費用がかかる。
●女性の視点発想も大切。
●短日数適用期間を小学校6年生までに拡大。宿泊を伴う研修のあり方を再考。
●本部大会での託児所の設置に感謝。
●踏切の鳴り切り状態は、2次被害リスクがある。
●山間では電波不良による車内補充券発行機が使用できない。沿線設備の整備を。
●育児休暇等、短期間の休職時の職務乗車証の返納免除をお願いする。
●運行管理システム老朽取替時の一時的な要員確保を。
●育児による短日数勤務制度の指定日数が最大8日となつたが、駅、工務、間接は適用外となっている。適用拡大の議論継続を。
●運転士へ出発合図を送るタイミングを、乗務員室ドアを閉めてからにしてほしい。
●「乗務員は、異常時は無制限に働かせられる」という乗務員運用の見直しを。
●地震の駅支援の際、駅係員から指示がなかったり、軽装がダメと言われ、支援ができなかった組合員がいたりした。指示の明確化を。
●「自力出勤」について、出勤方法等、伝達を統一して頂きたい。
●直接部門の制服の貸与枚数を3枚から5枚へ。
●第三者加害の事象発生時、手続きや着手金として、10万程度の金額をかけて泣き寝入りするケースが考えられる。金銭的な支援をお願いしたい。また、上司もノウハウが無いため、個人に丸投げになっている。組合として手厚いフォローをお願いする。(8面へ続く)